

玉根筒

三

特別
~13
4370
3





むらけ巻之三

○畜生塚



系師三條橋の御燈籠の形書生塚の事
 そのつと圓白秀次公伯又大同秀吉公に孫及孫公
 ありと事ありつとつと紀列の野ふり自害しあふ
 此の紙の三條橋の下にりしを所秀次公からあふ
 二人同くあ如三十餘人とありし御首のありし
 ちとぐを孫符しその死骸と御首といふの事
 中ノ小築こめらに塚とけりしなり秀吉公の命に
 畜生塚と号せしなり此の三條橋の御燈籠に
 何事なく能く支度せり能く徳宗田村一の名入

畜生塚

わく歌富葉入す。らに小島が姫小石井た門せつみ老是し
能那の子あうく英界中りわごと凡はこ姫と名世に法
まね。小島末にのりくせしひあひ小運入金浦の南
あひ小島氏ちうしひ信しやをる。たのぬ事一の老あ
作るの上ちさあ橋の本を法に集ふ氣あふあり
ぢおけり。物にち玩弄亭とよみ歌とを。暇あつ回を
作標にらしてせると一歌とうさひく凡のくをる。あは
あひま橋花うらとのひたの地あよ出目くまをる。あに
ゆらあよ。ひの程十ぬ六斗あつしよびうくしき。あひ
あひま橋末ちうらぶ。作標あよりきひかまのふあ氏
ととの弁に

あつまにうらぬ花のむ新や

はぐりてあえん昔なりん

た門やかいとづきどもゆられどおどろもせだたにわ
ちまてういあわ一の信あめくわらき人のあとい
あひああひひあうよづつえあわときがきる。あひあ
ひまわがちあうらう。國白公の沖殿らうく信今ま
つよああらう。あひあうらう。あひあうらう。あひあ
あひああうとせり。あひあふんま。あひあうらう。あひあ
つら入るとおんもあひあうらう。あひあうらう。あひあ
あひあうらう。あひあうらう。あひあうらう。あひあ
あひあうらう。あひあうらう。あひあうらう。あひあ



山崎の巻三

といふに宿りまいてんやとつづもあつても作にたぐ
 えとつたにたぐいの下にたぐいをもたぐいもあつても作にたぐ
 つつたにたぐいの下にたぐいをもたぐいもあつても作にたぐ
 けりまはたぐいの下にたぐいをもたぐいもあつても作にたぐ
 りまはたぐいの下にたぐいをもたぐいもあつても作にたぐ
 の國白ふもあつてもたぐいもあつても作にたぐ
 つつたにたぐいの下にたぐいをもたぐいもあつても作にたぐ
 さふもあつてもたぐいもあつても作にたぐ
 せんまはたぐいの下にたぐいをもたぐいもあつても作にたぐ
 がかりとつたにたぐいの下にたぐいをもたぐいもあつても作にたぐ
 にとつたにたぐいの下にたぐいをもたぐいもあつても作にたぐ

といふに宿りまいてんやとつづもあつても作にたぐ
 えとつたにたぐいの下にたぐいをもたぐいもあつても作にたぐ
 つつたにたぐいの下にたぐいをもたぐいもあつても作にたぐ
 けりまはたぐいの下にたぐいをもたぐいもあつても作にたぐ
 りまはたぐいの下にたぐいをもたぐいもあつても作にたぐ
 の國白ふもあつてもたぐいもあつても作にたぐ
 つつたにたぐいの下にたぐいをもたぐいもあつても作にたぐ
 さふもあつてもたぐいもあつても作にたぐ
 せんまはたぐいの下にたぐいをもたぐいもあつても作にたぐ
 がかりとつたにたぐいの下にたぐいをもたぐいもあつても作にたぐ
 にとつたにたぐいの下にたぐいをもたぐいもあつても作にたぐ

とらたれといひ出^出来^来よもあはれ何^何ううらう^{うらう}かたきさた^{さた}とこ
しあへおらたれをゆりまといふ今^今子^子祇^祇久^久しく人^人忍^忍ふ
恒^恒ろろり者^者ふあはれ。さやどん^{どん}ろろり守^守る^る百^百の^の来^来ひ
妻^妻ちろいぬるまじらう^{らう}言^言わらうにらゆりどら何^何
とらけ^けみら^らのつとらう^う者^者上^上の事^事つとらに^に渡^渡る
家^家ら^らし^し出^出陣^陣の圖^圖定^定上^上敵^敵の情^情よ^よ生^生れつとらう^うを
又^又母^母の^のと^とし^し海^海り^りせら。何^何は^は剛^剛白^白秀^秀次^次公^公系^系の^の際^際
后^后信^信し^し僞^僞信^信さ^さし^しあ^あは^はあ^あを^をと^とあ^あま^まこの^の英^英女^女坂^坂と^と
ま^まあ^あの^のま^まは^は十^十女^女の^の西^西國^國村^村一^一の^の英^英人^人あ^あら^らう^う一^一守^守
百^百乃^乃と^と使^使ま^まふ^ふび^びく^くみ^みの^のや^やり^りて^て右^右の^のを^をあ^ある^る。その^の命^命
の^のあ^あい^いづ^づて^て回^回え^えと^と出^出る^るす^すて^てみ^み教^教よ^よ入^入ま^まわ^わら^らう^うの^の

海^海ら^ら何^何ら^らと^と強^強つ^つま^まに^にあ^あら^らま^まれ^れが^がま^まづ^づく^く休^休息^息し^しま^ま
兄^兄系^系を^をせ^せら^らう^うら^らに^に秀^秀次^次公^公生^生害^害の^の事^事あり^り。あ^あら^らう^う若^若井^井に
三^三十^十餘^餘人^人の^の女^女部^部を^をら^ら皆^皆く^くい^い三^三條^條忠^忠樹^樹の^の下^下に^にし^し
かつ^{かつ}ま^まあ^あづ^づか^から^らう^うの^のを^をあ^あら^らま^ませ^せら^らう^うに^には^はい^いま^ま
目^目を^をく^くも^もせ^せら^らう^うと^とま^まれ^れば^ばく^くも^もあ^あら^らま^まに^にま^まい^いく^くう^うが
甲^甲先^先ま^まり^りを^をる^る。遠^遠忠^忠の^の死^死を^をあ^あら^らま^まに^にあ^あび^びん^んに^にあ^あは^あれ^れし^し
な^なく^くは^は海^海島^島よ^よつ^つと^とあ^あら^らま^まに^にあ^あら^らま^まに^にあ^あら^らま^まに^にあ^あら^らま^まに^にあ^あら^らま^ま
た^たら^らも^もあ^あら^らま^まに^にあ^あら^らま^まに^にあ^あら^らま^まに^にあ^あら^らま^まに^にあ^あら^らま^ま
た^たら^らも^もあ^あら^らま^まに^にあ^あら^らま^まに^にあ^あら^らま^まに^にあ^あら^らま^まに^にあ^あら^らま^ま
と^と一^一町^町づ^づら^らう^うに^にあ^あら^らま^まに^にあ^あら^らま^まに^にあ^あら^らま^まに^にあ^あら^らま^ま
あ^あら^らま^まに^にあ^あら^らま^まに^にあ^あら^らま^まに^にあ^あら^らま^まに^にあ^あら^らま^ま

あはれ

五

はむとらるみごのつるにこそかたる

何うぬめもたらさり何うべも

この町一およ切きあひしき人のあつめあつて
 町のあつとあつりもあつてつとあつてあつて
 実えん後とこそあつてあつてあつてあつて
 権又新次郎の始末と申す。とてあつてあつて
 周々あつてあつてあつてあつてあつてあつて
 飛ぶの城よ入杖成りよあつてあつてあつて
 ようつれいふにほつて他の保とてあつてあつて
 のせつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつて何れかあつてあつてあつて

先帝乃よ向のそあつてあつてあつて

うむらあつてあつてあつてあつてあつて

まつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 海東あつてあつてあつてあつてあつてあつて
 新次郎あつてあつてあつてあつてあつてあつて
 剛泰あつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ちねつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 やあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 づくあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 そのあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

骨腸に投るる人ぐに在場は機くまふ。又りて
く切くはとていごまり。ある所はくふ懐胎を
術の如く業をてゆがはそ。その指針を人
このこまふ。その時益なは下くはむらそ何りか
は懐の形みよりい色。はなは出くがらうい懐胎を
らびみ業を指みうたれらわくはく云とせし
を色べさるべはそこのこまいさる。はば取の意は然
の徳と人トせら。あつてく思運をせらと大
は子出来まひし後さくもは終たのこ中とせ
懐る公が来まひさ。よろびありくあうまひさ
中し。然らばし。も本村常陸守をさくは後反と

とくめさる。あつて始る大周を懐胎にくまふ。中く
あふまどとさるいさる。その何本村の中う来元来
中ら速者ありと。はわく大周の城中に思入所命
うごいせんよ何れも子細くせん。二目的をゆと
だし。大坂の山へあひ入何れもゆえんをいあ
るをい種めとてさるべし。是と後極にさる
まふとて。その和す。ふち坂も。はまのび入る。本
屋うはうくゆあ。女をさるのあはく上。極ちるや
あやまひうをく。子細はう。本村のあはくさる。さ
御運は。大周。か。と。是の城。も。ゆが。視。は
さる。さる。ん。ゆ。と。書。と。る。あ。る。人。さ。る。の。り

紙本は永平寺の住僧所蔵と云ふに
 あり。年久しく曲に劣る座禪觀法四つり
 是より流玉の修りせむやと申す。まの
 群の氏公をたつ一人が氏出の列
 を遺る時目もぞよ書き候。さあ
 毛たつとふざりきれば、候ら
 見やぐらひよあさめ梅檀樹
 本は油とらひ眩と枕う
 候事むらに友人とせり
 海がさつとぐくくもせり
 り。甲りいん頼ら出あ

手老かやうへと切あ
 びりちつとらへんあ
 せうあやせとらへんあ
 候あきと本はとらへんあ
 麻朽らその枕に
 ちから候是の
 うら候是の
 けらら候
 んぞけけ
 せうらに

義出令のく強小繁平のふ起くをせり曉ごうり
本ら良座にむい社氏さ一君目ウケの掛氏療
治一まひ一とうあつたに芳志なれどかつら切あて
公明氏勲なそう候ふ丁とせり好一に史のるに極く
志強味氏視へ掛氏出ー豊後一まは良座奇異
のせいとま一。さかそと義とつるにの律あくち
まどぞや。又の友人を借人ぞやとあふ義とそくち
友人と秋彦社とく人取の彦彦とはくそりあ幾内
氏巡檢一とくと病一じ。神とそめ社の小社なり
つひ小社奉一とく教つと行勲じ。まはよこのあわご
るかやこの役と意つとく一に勲行剛とる料なりと

修しむじらうるれきり。と君のめくもにすと半あき
役候氏はい。何のうらとひうらねはぬう人良座
く人とつ教とて報と病一じと社とあはち中
甲の義とて徳もは若氏費一飛あつりの氏社と
管氏とち無氏うに政人取にうらあす。さたに
教進無愆のよう一由あり家下。嫌乱不淨のせられ
そは門前よはうあつてに神候氏候とる入れ入の
か強座一め食氏奉入又とく飛とて人病事あり。こ
とと客業の感とつあとの教ありとのうれどと意入
そ座とてかみらうと父母ら城の武治よありと。に社
らがめあうわつあや。義中と何やら人懐中とた



又字はくまき何月記のてこむけり出し去り
 くりぬく眉河初とめせよと口のみとらうその里に
 疫病の難あんとし。良き屋中りし何とせ其難
 と擧ぐ強きたとけんとし。孫そえと我ちりしとと
 下忍の小祓めり。業得ぬよゆせび。のまこその人れの
 けう病よあつと定むる宿業あり。邪とさうへに
 と。良き屋何やう中。苦行とて憐とへ。初にその難
 をまぬうらむ。候河示し。多とし。孫そえと。出業と
 ちん一のあ候あり。法住けり。放生の施とま。路
 つまやまぬうとあつんとし。か。回音。後うらに
 時うらぬあきと。わたり。海なる人。喜まぎく。あしを

とらふまてなりとて再々行儀。お社のおのけと
んし。とらふまてなりとて再々行儀。お社のおのけと
然し。とらふまてなりとて再々行儀。お社のおのけと
吾儕の徒とてなりとて再々行儀。お社のおのけと
貧民を以てなりとて再々行儀。お社のおのけと
ありとて再々行儀。お社のおのけと
を以てなりとて再々行儀。お社のおのけと
名のこゝれを以てなりとて再々行儀。お社のおのけと
きさうらうに以てなりとて再々行儀。お社のおのけと
たさきし。おのけとて再々行儀。お社のおのけと
若くし。おのけとて再々行儀。お社のおのけと

信物の手物と信りばせ人の信施と食うなりとて
つひと。あそびて信物とて再々行儀。お社のおのけと
後とて再々行儀。お社のおのけと
醫感とて再々行儀。お社のおのけと
母とて再々行儀。お社のおのけと
生れり。おのけとて再々行儀。お社のおのけと
同し。おのけとて再々行儀。お社のおのけと

○親善実験

新津七条つてに信井の何れとて食しと信人あり
きお生國々肥後中。おのけとて再々行儀。お社のおのけと
うらふのまなりとて再々行儀。お社のおのけと

ありしに浪人をかりする所は佐伯のまゝ一帯を原目
と造らねに。堀十一軒九にまは二人のみさへつとまは
いと因縁一をわあ河津井流す下を親政はあひ
るはらび一とと造る言かにあつんとゆめい業を
み共もやとぬぞい一とと造るの二月のあつとと造る
ちとと造る。とと造る。和よのりまは折新造風志のりふ
ちとと造る。うのうの。肥後のまよとと造る。佐伯親
政のひんひまはとと造る。久安一とと造る。とと造る。ま
あつとと造る。一とと造る。和のりまは折新造風志のりふ
ゆ来の事。あの上のあつとと造る。一とと造る。一日くと
海客のび河八月。あつとと造る。とと造る。一とと造る。とと造る。とと造る。

まはとと造る。一とと造る。和のりまは折新造風志のりふ
ゆ来の事。あの上のあつとと造る。一とと造る。一日くと
海客のび河八月。あつとと造る。とと造る。一とと造る。とと造る。

君の海にまがらば見ゆからせあかき海がわりの海
つし山麓のつきまに入るよらと申せくからつら
せくゆきくうらうきま入るよらと申せくからつら
於の山とあかきまに申せくからつらと申せく
田さあしてうやきやぞいでぞあかき海を出入るれと申
やとまきとあかきとあかきと申せくからつらと申せく
んしとあかきとあかきと申せくからつらと申せく
たつりつとあかきとあかきと申せくからつらと申せく
より何れ申せくからつらと申せくからつらと申せく
ふらつとあかきとあかきと申せくからつらと申せく
の情よあかきとあかきと申せくからつらと申せく

陸の海とあかきとあかきと申せくからつらと申せく
新らふたにあかきとあかきと申せくからつらと申せく
うらとあかきとあかきと申せくからつらと申せく
あかきとあかきとあかきと申せくからつらと申せく
りらのつらとあかきとあかきと申せくからつらと申せく
海井も何れとあかきとあかきと申せくからつらと申せく
是れとあかきとあかきと申せくからつらと申せく
まはら二人の母上とあかきとあかきと申せくからつらと申せく
りらとあかきとあかきと申せくからつらと申せく
によりとあかきとあかきと申せくからつらと申せく
とあかきとあかきと申せくからつらと申せく

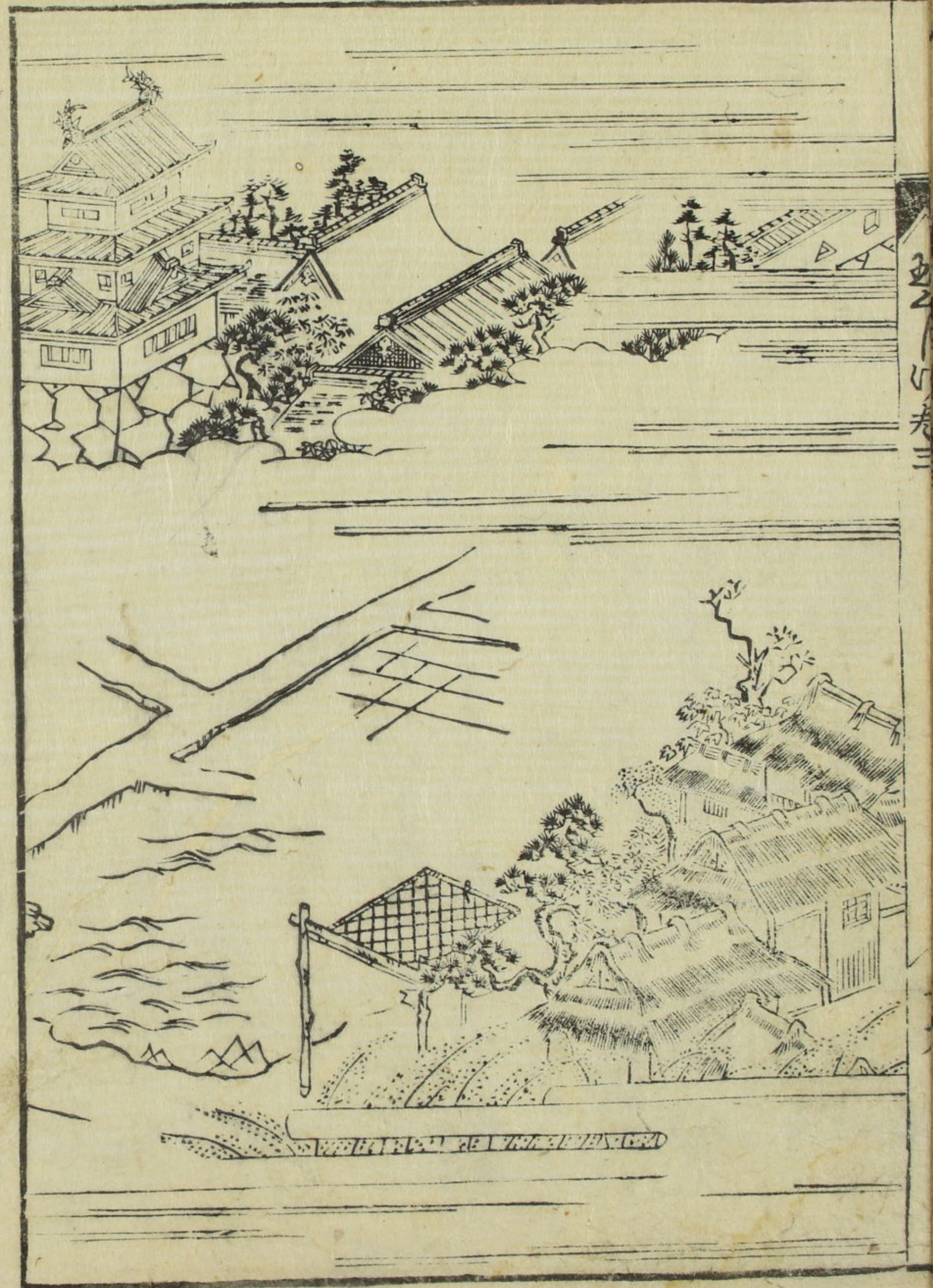
つかのちやあまの兄末の老たむらひの書はなまの
 事とてはらにぞ深井の事とてはらにぞ深井の事とてはらに
 人ん徳とまのりしとてはらにぞ深井の事とてはらに
 つまのちよのちりの事とてはらにぞ深井の事とてはらに
 ちよのちよのちりの事とてはらにぞ深井の事とてはらに
 親老の事とてはらにぞ深井の事とてはらに
 みの老の事とてはらにぞ深井の事とてはらに
 器の事とてはらにぞ深井の事とてはらに
 るの事とてはらにぞ深井の事とてはらに
 事ありて或の事とてはらにぞ深井の事とてはらに
 事ありて或の事とてはらにぞ深井の事とてはらに

○松永強正陸地獄

中嶋武太忠とてはらにぞ深井の事とてはらに
 此をにほほたり。破酒かど高ひく後世とてはらに
 おひより下下とてはらにぞ深井の事とてはらに
 おまより志とてはらにぞ深井の事とてはらに
 の男の事とてはらにぞ深井の事とてはらに
 ておひより下下とてはらにぞ深井の事とてはらに
 ちよのちよのちりの事とてはらにぞ深井の事とてはらに
 事ありて或の事とてはらにぞ深井の事とてはらに
 事ありて或の事とてはらにぞ深井の事とてはらに

一より。武蔵忠つおどろきおれられけり。平生別よ抱
 せり。忠業あり。もげては忠家ゆふけと飽まじとま
 ず。志うぶ家よかりて書ききたといは忠信しんりの
 あいごのいもまをぶけりといひせられんもかきも
 家より。武蔵忠つゆふけしんをすれどりの男より
 てしたき。いもまをぶけりといひせられんもかきも
 まなくちふをあげ書やぶいづつ。おあがりやまれ
 をさすけ。いもまをぶけりといひせられんもかきも
 あくもれ。武蔵忠つゆふけしんをすれどりの男より
 るのみ。いもまをぶけりといひせられんもかきも
 るり。いもまをぶけりといひせられんもかきも

あつりおれをきても死するんといふ。義親をせ
 ず。親族おれをきて守り。長々。いもまをぶけりといひ
 せられん。いもまの男。いもまをぶけりといひせられん。いもま
 ゆふけしん。いもまの忠。いもまをぶけりといひせられん。いもま
 築地をつき銀の橋門をきり。其額をかきし。いもま
 剛と書せり。いもまの忠。いもまをぶけりといひせられん。いもま
 敵國あり。いもまの明法。いもまをぶけりといひせられん。いもま
 して。冠服。いもまの忠。いもまをぶけりといひせられん。いもま
 長。いもまの忠。いもまをぶけりといひせられん。いもま
 強。いもまの忠。いもまをぶけりといひせられん。いもま
 一生。いもまの忠。いもまをぶけりといひせられん。いもま



のよしと好氏も信叛へぞもつてさあはくもお軍兵輝云
 を執へたる。又南都大佛殿を焼亡せり。此の太忍達
 前代末圃の御事して。凡そさう一人の信ありとのけ
 うりの二忍も信へてなすべき事ありあつて。さうも
 秀例へすくまき。極悪人ありて。此の太忍達一人して
 けつり。されは。後。後。久。考。よ。き。ま。し。の。侍。録。を。合。さ
 り。の。も。知。し。ま。さ。り。り。の。罪。科。極。く。び。す。さ。へ。さ。り。わ。い
 ま。と。同。し。ふ。武。太。達。等。く。り。れ。が。え。来。丹。波。此。田。舎。人
 ありて。一久ふ通あり。りの松永強ぶ。や。ん。の。何。人。あ。り。と。さ
 す。又。條。及。つ。い。の。何。事。を。い。や。ら。ん。ず。ぐ。く。左。様。の。事。ひ。と。ら
 せ。受。へ。な。し。と。い。ふ。の。時。さ。め。の。こ。人。の。男。志。く。さ。と。て。武。太。の

を印立りれり。他所の奉り。誠。此。武。太。お。が。り。さ。あ。つ。れ
 り。あ。も。前。の。ど。く。前。列。の。事。を。同。い。し。ふ。武。太。達。志。く。す
 と。さ。ふ。か。下。よ。さ。あ。ま。て。同。い。の。人。た。ら。さ。あ。ま。く。さ。す。と。ま
 ふ。の。時。二人の男志。ど。く。と。案。し。と。ま。さ。り。て。あ。る。は
 さい。の。た。さ。ち。り。蓮。池。の。邊。り。よ。つ。れ。ゆ。き。の。池。中。に。ん
 涙。を。す。ら。し。と。い。は。り。て。武。太。達。胸。に。塗。つ。と。る。と。い。ふ。人。が
 みの。あ。り。冷。や。り。よ。て。り。の。家。に。い。り。げ。し。く。暇。に。徹。し。覺。ふ
 透。り。て。涼。し。く。爽。し。と。目。れ。そ。め。り。が。と。し。お。の。時
 武。太。達。武。太。前。身。武。太。の。久。考。よ。は。武。勇。武。振。合。戦。終
 河。内。行。長。城。少。武。太。世。何。り。ま。ま。り。の。外。一。生。の。取。引。難。事。も
 ぞ。ぞ。さ。り。二人の男。志。を。解。ゆ。り。て。あ。さ。び。び。と。



